

平成26年度 第9回 緩和ケア講演会のご報告

今年度の第9回緩和ケア講演会は、2月12日に開催いたしました。出席人数は37名、うち、院内29名、院外8名でした。

今年度の年間テーマは「緩和ケアにおける各種スキル ～地域における各職種のプロに学ぶ～」です。第9回目の今回は「放射線治療看護の実際」というテーマで、木沢記念病院放射線療法看護認定看護師 日浅友裕先生に放射線治療についてご講演いただきました。

今回はアンケートで質問が多数ありましたので、抜粋して日浅先生にお答えいただきましたので、コメントを添えさせていただきます。

ご質問・ご意見とそのコメント

実際に対応する場合、①痒みのある場合、②乾燥のある場合、どのような軟膏を使用することがありますか？名称を教えてください。

痛みや痒みがある場合は、アズレン（アズノール[®]軟膏）を使用することが多いです。基本的には患者さんにとって痛みや痒みが苦痛であると感じる場合に軟膏を検討します。ステロイド軟膏は長期投与にならないように潰瘍やびらんが生じたときのみ使用します。乾燥がある場合ですが、照射期間中は皮膚が剥けないように乾燥した皮膚のまま保ちます。照射終了後に皮膚炎が落ち着いてきたら保湿を開始するのがよいと思います。

放射線治療をした部位は再照射できないですが、緩和的であれば再照射ができるのでしょうか？

原則的には同じ部位に照射することはできませんが、緩和照射であれば再照射できる場合もあります。臓器ごとに耐えられる線量や範囲が決まっています。緩和照射の場合は線量が少なく、前回の照射量と合わせても臓器が耐えられる場合は再照射できます。骨転移に対する再照射の場合でも疼痛緩和効果の有効性は証明されています。

次回の講演会：3月12日（木） 18時～19時半

内容：「意思決定に悩むがん患者・家族への支援 ～診断期から終末期まで」

ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もしどしご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX：0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp